

海城寺子屋学級

講師の先生方ご紹介

一
限
目

『 当たり前とは何か 』

～「見る」ことをめぐって～ 』



いとうえ あきよし
国語科 井上 明芳 先生

—プロフィール—

主な研究分野は、日本近代文学、とくに小林秀雄、横光利一。その関係から、山形県鶴岡市での横光利一顕彰事業への企画参加などをしてあります。また、NHK出版から「東京文学探訪」(井上謙著)の企画編集協力、「横光利一事典」(あうふう)、「向田邦子鑑賞事典」(翰林書房)などに執筆しております。

斬新な視点や個性重視の昨今ですが、やみくもに求めても得られません。それよりも、とても身近な事を問い直すことによって「気づくこと」が大切ではないでしょうか。そこで今回写真家畠山直哉の作品を手掛かりに、当たり前に見えていることを問い直します。

一
限
目

『 豊か×幸せ = 失望 』

(仮題) 』



すずき ひろみつ
社会科 鈴木 浩充 先生

—プロフィール—

海城は5年目です。主に高2、高3の政経を担当しています。いつも焦っているところ、学生のみなさんに助けられています。「海城寺子屋学級」・・・緊張します・・・あっ、お腹が痛くなってきた・・・

「ドラゴン桜」を契機に、「世界青年意識調査」(旧総務庁)を読み解き、現代日本の若者像に接近してみたいと思います。それは、ニートやフリーターの第一世代である団塊ジュニアの私が、もう一人の私を見てみたいという、個人的な欲望から行われます。

二
限
目

『 新古今への道 』

～俊成自讃歌をめぐって～ 』



なかた たいせい
国語科 中田 大成 先生

—プロフィール—

平成4年より本校国語科専任教諭(平成12～14年、早稲田大学文学部非常勤講師兼任)、本年度は中一学年主任・中一國語担当。趣味はルアー・フィッシング(トラウト系)。妻曰く「和歌的な情緒・繊細さに最も欠ける人が何故それを専門としているのか、全く理解不能」とのことです。(苦笑)

今年は古典和歌を代表する勅撰集『古今集』・『新古今集』の成立から1100年、800年の記念の年に当たります。それに因み本講座では新古今歌壇を領導した藤原俊成の自讃歌に取り上げ、新古今歌風成立の始発につきお話したいと思います。

二
限
目

『 ニュースから考えあう 』

現代社会 (仮題) 』



やつぶか けんろう
社会科 八塚 憲郎 先生

—プロフィール—

現在、学年担当は中学3年生。今年度の授業は、中3の「社会III」と「歴史」。それ以外に、高2の「現代社会」を1クラスだけ担当しています。

最近の身近なニュースを取り上げながら、そのテーマをとらえる視点や問題点などを一緒に自由に考えあう時間できればと思っています。